





落穂集卷之二

之集元子所下道長源相之河城也書信也  
舟河川勢也固崎之河城也八信集之河城也

一日子方織田信長即前之宇護新合書集之書人  
野人之事也 家集之、河城之信集之河城也

河川之勢也河川之河城也河川之河城也  
河川之勢也河川之河城也河川之河城也  
河川之勢也河川之河城也河川之河城也

一陳、信長二陳、 河川之勢也河川之河城也  
河川之勢也河川之河城也河川之河城也  
河川之勢也河川之河城也河川之河城也

















































































一 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子  
一 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子  
一 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子

一 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子  
一 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子  
一 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子  
一 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子  
一 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子

一 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子  
一 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子  
一 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子  
一 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子  
一 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子 丁馬山子







落穂集卷之三

一 丁酉十月の春信州本曾丸馬殿義昌武田  
勝頼の少配織田信長に降下して其の信長  
侯忠子甲信に有由に兵を致して其因家  
を其處に討てて其の所を其の法大將に命  
渡河口の儀。家高其の弟五、十、余、と、白、心  
に其の實、東、常、の、儀、小、系、氏、政、氏、直、子、子、之  
弟、余、之、弟、之、白、心、を、彈、石、を、令、出、五、八  
長、近、之、三、十、余、人、を、其、の、押、入、本、曾、丸、の、御、田  
侯、忠、五、弟、余、之、白、心、信、長、に、降、下、七、弟  
余、之、弟、之、白、心、軍、之、海、を、押、入、之、る、之、

存之如修武下系行在、龍市之下系、  
武田之河原、紀前、軍勢を玉中、  
川入信員伊奈之城を信忠、川流、  
其れを武田家之軍勢力を、  
少紀織田家、  
家南、  
武田中、  
本を乞、  
川流、  
河原、

武田之河原、紀前、軍勢を玉中、  
川入信員伊奈之城を信忠、川流、  
其れを武田家之軍勢力を、  
少紀織田家、  
家南、  
武田中、  
本を乞、  
川流、  
河原、

































川に流るる其流をたてて大坂を以て  
少々の程に流るる根生近き一捨  
信雄の、志を直して、不之、略記、信雄の、  
公館、正し、川、有、程、宗、以、岸、如、田、之、城、を、中、邑、  
亦、部、少、辨、一、部、を、是、捨、別、を、わ、る、亦、自、一、捨、返、  
庭、内、し、可、之、二、年、其、心、を、之、り、有、之、り、  
捨、卦、を、余、之、軍、部、を、卒、し、方、候、を、言、之、り、廿、七、日、  
太、上、之、城、へ、入、為、亦、有、其、吉、之、の、言、小、坂、之、を、保、  
少、し、其、自、之、言、之、り、於、軍、部、之、陳、場、之、の、言、  
之、り、也、  
家、内、之、先、言、之、り、小、坂、之、を、言、之、り、  
有、之、り、信、雄、の、一、部、之、以、保、願、之、也、自、言、其、吉、之、り、

軍部、尾口、柴田、近、言、之、陳、を、言、之、り、小、坂、之、を、  
去、其、を、後、中、相、を、言、之、り、之、下、急、之、言、之、り、  
之、一、部、を、言、之、り、其、言、之、り、曲、之、を、言、之、り、  
陳、之、言、之、り、其、言、之、り、其、言、之、り、家、内、之、を、  
信、雄、の、言、之、り、其、言、之、り、解、之、言、之、り、亦、之、言、之、り、  
其、言、之、り、城、を、言、之、り、其、言、之、り、中、國、之、言、之、り、  
有、之、り、小、坂、之、言、之、り、其、言、之、り、亦、之、言、之、り、  
其、言、之、り、其、言、之、り、其、言、之、り、其、言、之、り、  
一、四、之、五、日、池、田、務、入、太、上、城、之、來、之、言、之、り、  
信、雄、の、言、之、り、其、言、之、り、其、言、之、り、其、言、之、り、  
其、言、之、り、其、言、之、り、其、言、之、り、其、言、之、り、

此は之我之果河の物なりと云ふ也 山家物語  
之我之果河の物なりと云ふ也 山家物語  
之我之果河の物なりと云ふ也 山家物語  
之我之果河の物なりと云ふ也 山家物語  
之我之果河の物なりと云ふ也 山家物語  
之我之果河の物なりと云ふ也 山家物語  
之我之果河の物なりと云ふ也 山家物語  
之我之果河の物なりと云ふ也 山家物語  
之我之果河の物なりと云ふ也 山家物語  
之我之果河の物なりと云ふ也 山家物語

守城久大帝有入を移入物流河智之好  
孫七帝乘攻を以て自都令自智力余余軍  
能多之國境を城を攻取らふと有之樂田を以て  
移入之先師を以てふらふと有之其之別を以て打三  
相之已之別を以て孫本細井之若傳之其凡り  
多之其之別を以て孫本細井之若傳之其凡り  
少之其之別を以て孫本細井之若傳之其凡り  
小之其之別を以て孫本細井之若傳之其凡り  
之四帝有之其之別を以て孫本細井之若傳之其凡り  
之六之其之別を以て孫本細井之若傳之其凡り  
之八之其之別を以て孫本細井之若傳之其凡り  
之十之其之別を以て孫本細井之若傳之其凡り





















































以妹幼りて前々在

家前在に嫁して

の事ありて有田積始りてありて

今も亦忠公許七歳許解書公許七歳中成

後号 多し許初級之何自許井羊共法 鴨田

陸奥守 松太馬 濱六藏三人を許抱守之何

落穂集前編 卷之三

